論説

明治前期、愛川町域農村における商品生産の実態と特質

山口　徹

目次

はじめに
一　愛川町域農村の概要
二　明治六年の生産状況
三　産物構成から見た村の類型
四　田代村・三増村の明治十五年の生産構造
五　明治六年から明治一五年にかけての生産構造の変化
あとがき

はじめに

本稿は幕末から明治初期にかけて、養蚕・製糸業が展開し、その後大正・昭和期にかけて半原村を中心とした撚糸生産を生み出した愛川町域農村の幕末から明治初期の生産状況を明らかにせんとしたものである。

それは、この時期にこの地域に養蚕・製糸業を中心に展開する商品生産、商品経済の性格を確定する条件を明らかにせんとするものであり、そのための問題点も明らかにせんとしたものである。

本稿はかつて神奈川県史編纂委員であった丹羽邦男氏の依頼をうけて、行なった半原村の調査（「半原村撚糸業の生成と展開―神奈川県愛甲郡愛川町半原調査報告―(1)」を基礎に、一九九四年より愛川町の博物館設立準備の一貫として依頼された愛川町の古文書調査の過程で見えてきた愛川町の幕末から明治初期の生産概況を、愛川町域に含まれる旧村の総体として把握し、分析の前提とせんとしたものである。

一九七四年度の調査では調査の中心を半原村、史料も同村の新井家文書、内藤家文書に限定し、半原村が県下有数の撚糸・練糸の特産地帯であったことを明らかにした。しかし、それが半原村の一村の特殊な状況なのか、半原村をとりまく周辺農村をふくめた、この地域の特徴なのか、この地域の農業を始めとする生産のあり様とどのようにかかわって展開したのか等々の問題については検討を加えていない。本稿はこれらの点をはっきりさせる意味を持っている。

ところで、今回主な調査対象とした愛川町の半原村新井家、田代村の大矢家にはこの地域の農村の概況を示す次の史料が残されている。

その一つは幕末期の様相を示す、いわゆる村明細帳と農間諸渡世書上帳であり、二つは明治七年の産物書上であり、三つは明治一四・五年頃の概要を示す皇国地誌である。

幕末期の村明細帳は当然のことながら全村のものはないが、半原村、田代村に年度の異なるものが数点、農間諸渡世書上は天保一四年のものが両村に残されている。

明治七年の産物書上は明治六年の産物を品目ごとに数量を調査したものであり、大矢家には先に述べた愛川町に属

する旧村の全てと、川入村を加えた足利県第三大区四小区に属する全ての村の産物書上が残されている。

皇国地誌は明治政府が全国の地誌編纂の基礎資料として全国各府県を通して各郡町村ごとにまとめたもので、明治五年から明治二〇年にかけて編纂がすすめられた『日本地誌提要』（内務省地誌課編）・『大日本国誌』（内務省地理局編）に比べると最も詳細なものであったと言われている。しかし、『皇国地誌』・『皇国地誌郡誌』は東京大学図書館に保管されていたが関東大震災で大半が焼失し、県庁や郡役所に保管されていた控も多くが散逸している。神奈川県では昭和三八年に県下各村の地誌草稿を発掘して『神奈川県皇国地誌残稿』上、下（神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会編）として刊行されている。現在も県下の各自治体史の編纂事業のなかで新たなこの種の地誌の発掘がすすめられている。(2)

幸い愛川町域に属する村々の皇国地誌は全て『神奈川県皇国地誌残稿』(3)の下巻に収録されている。ただ田代村、三増村を除いた地誌は後半部分が欠落し、完全なものではない。田代村、三増村の地誌は両者とも明治一五年の「編成」となっている。したがって、他の村の皇国地誌も明治一五年に「編成」されたものと考えられる。

ところで欠落したと思われる部分を田代村、三増村の地誌から見ると、各村の産物を品目ごとに単価と産額を示した部分であることがわかる。したがって、皇国地誌が全て完全な形で残っていれば、愛川町全体の生産状況をより正確に把握できたであろう。なお皇国地誌については後でふれることにしたい。

ところで、天保一四年、明治七年、明治一五年に公けにされた、右の史料はそれぞれ、異った歴史的背景のもとで、異った権力のもとで、異った意図のもとで作成されたものである。したがってそこに表現される村の断面を理解するためには、右の点を検討しなければならない。本稿においては、右の点を十分認識しながら、先ずは右の史料を検討することにしたい。その過程から、おのずと三者の違いも明らかになるであろう。例えば天保一四年の村明細帳、農

間諸渡世書上では物産量・額の調査は調査対象になっていないし、余業の調査も個人がどの様な余業を農間におこなっていたかを知るためのものであったと思われる。おそらく、冥加金を課する対象を把握することに目的があったのであろう。これに対し明治七年の物産調査は村段階での諸生産を量的に把握したものであった。しかし、明治一五年の皇国地誌のように生産額表示はない。皇国地誌の場合は生産量と商品の単価、および生産額を自用のワラ製品、いわゆる自給民具、下肥等の自給肥料にいたるまで、全ての品目について生産額で把握したものである。明治七年の産物書上では自給民具や自給肥料等は調査項目、品目の中にはない。このことは明治七年の産物書上と明治一五年の皇国地誌の物産調査の間に調査方法は勿論、調査目的が異っていることを示すものであり、商品経済、貨幣経済の発展の違いを物語っていると考えることが出来よう。

一　愛川町域農村の概要

表1は「皇国地誌」から田・畑・山林・宅地其他の地目別の土地の存在状況を村別に集計し、参考として江戸時代の村高および明治七年に報告[4]された各村の戸数・人口を記し、物産調査がおこなわれた明治六年頃の村の概況をまとめたものである。

表1で見ると石高の最も多い村は中津村であるが、中津村は熊坂村（五八〇石余）、半縄村（六三四石余）、八菅村（四五石余）が合併した村である。したがって合併以前の旧村で見ると、最も石高の多い村は八七七石余の角田村であり、次いで多いのは七二九石余の半原村である。次に多い三増村は角田村の約半分、田代村は約三分の一であった。八菅山村は新田村であり、江戸時代には中津村に合併された八菅村（四五石余）とともに五二石余と一〇〇石にも満たない小村であった。

総面積から見ると、最も大きい村は半原村で、石高の最も多い角田村の二倍、次で面積の広い村は角田村の二分の一の村高の三増村である。半原村、三増村はそれぞれの村の総面積の七九％、六〇％を山林が占め、四小区の山林の四八％、二〇％、両村でほぼ七〇％を占めていた。次に山林の大きい田代村の山林面積は四小区全体の一一％とそれ程広くはないが総面積に占める割合は三増村より六八％と高い。また八菅山村も山林面積は一〇〇町歩と少ないが、総面積の九三％を占めている。中津村下川入村の山林は総面積のわずか一〇％ほどであった。

次に田畑比率を見ると四小区の村の中で田方比率の最も高いのは三八％の下川入村、愛川町の中では田代村が三三％と最も高い。半原村は六・六％、三増村は田は無く皆畑の村である。その他の村は一五％以下であった。四小区の村は平均一一・四四％の田の比率に見られるように、畑作を中心とした農村であったと言えよう。

戸数・人口の最も多いのは三八五戸、一六四九人の半原村、次いで二七五戸、一二三五人の三増村であり、八菅山は三二戸一五二人と最も少ない。旧村の戸数、人口の確定出来ない中津村を除いた戸数・人口と石高・地積との相関を見ると戸数、人口は村高より地積に比例している。なお、一戸平均の人数は全ての村で四～五人であった。

次に反当石高を見ると反当石高の最も高いのは八菅山（七斗四升二合）次いで下川入村（五斗八升六合）角田村（四斗一升六合）、半原村（三斗八升一合）、田代村（三斗六升二合）と続く。これらの村の反当石高は平均三斗二升七合より高い。最も低いのは皆畑であった三増村の二斗八合であり、反当石高は村々の間で二倍から三倍のひらきがある。

こうした反当石高、一種の土地生産性の差の存在は四小区の村々の耕地の存在状況が自然的条件に規定され、かなりの違いがあることを物語っている。その違いは例えば田の比率が三三％の田代村より、田の比率が六％と低い半原村や一五％の角田村の方が田代村より反当石高が高い点に示されるように、この地域では田より畑の方が生産力の高い耕地が多いことを示している。この地域の田畑は田畑とも自然的条件に応じ、かなりの生産力の差があることを物

（　）（（　））〈　〉は百分率%

八菅山村	中津村	下川入村	計
〈1.24〉 52石 454	〈29.91〉 1260.71	〈13.90〉 585.874	〈100〉 4214石 6984
反畝歩 〈0.51〉 7.5.27(10.73) 〈0.55〉 62.3.19(89.27)	反畝歩 〈24.84〉 365.3.24(7.38) 〈40.28〉 4584.3.03(92.62)	反畝歩 〈26.02〉 382.6.26(38.25) 〈5.43〉 617.6.10(61.75)	反畝歩 〈100〉 1470.4.00(11.44) 〈100〉 11380.7.29(88.56)
〈0.54〉 69.9.16(100)	〈38.51〉 4949.6.27(100)	〈7.78〉 1000.3.06(100)	〈100〉 12851.1.29(100)
〈7.06〉 1072.8.06((93.88))	〈3.82〉 580.5.11((10.50))	〈0.75〉 111.8.17((10.05))	〈100〉 15200.2.06((54.18))
〈4.07〉 1142.7.22((100))	〈19.71〉 5530.2.08((100))	〈3.96〉 1112.2.23((100))	〈100〉 28051.5.05((100))
67.8.15	1175.4.05	860.8.02	4361.2.09
〈3.82〉 1200.6.07	〈20.09〉 6705.6.13	〈6.09〉 1973.0.25	〈100〉 32412.7.14
32 152 4.75	403 1901 4.72	108 566 5.24	1521 6956 4.57
7.4.2 1.6.3.7 2.1 2.1	2.5.5 3.1.2.8 1.2.2 1.6.6	5.8.6 5.4.2.4 9.2 1.8.2	3.2.7 2.7.7.1 8.4 2.1.3

計した数値である。

表1　足柄県　第三大区四小区村落概況

	愛川町			
	半原村	田代村	三増村	角田村
A村高	〈17.30〉 729石02467	〈6.85〉 288石4408	〈9.97〉 420石09	〈20.83〉 877石805
地積 B田 C畑	反畝歩 〈8.58〉 126.1.18(6.60) 〈15.67〉 1783.1.22(93.40)	反畝歩 〈18.20〉 267.6.06(33.46) 〈4.67〉 532.0.27(66.54)	反畝歩 — 〈17.69〉 2013.3.22(100)	反畝歩 〈21.82〉 320.9.19(15.22) 〈15.71〉 1787.8.16(84.78)
D田畑合計	〈14.86〉 1909.3.10(100)	〈6.22〉 799.7.03(100)	〈15.67〉 2013.3.22(100)	〈16.41〉 2108.8.05(100)
E山林	〈48.08〉 7308.1.22((79.28))	〈11.35〉 1725.6.06((68.33))	〈20.08〉 3049.9.28((60.24))	〈8.89〉 1351.2.06((39.05))
F田畑山林合計	〈32.85〉 9217.5.02((100))	〈9.00〉 2525.3.09((100))	〈18.05〉 5063.3.20((100))	〈12.33〉 3460.0.11((100))
G宅地・芝地其他	288.6.29	1246.8.12	150.1.19	571.4.17
H総計	〈29.33〉 9506.2.01	〈11.64〉 3772.1.21	〈16.08〉 5213.5.09	〈12.44〉 4031.4.28
I　戸数 明治7年 J　人口	385戸 1649人	139 644	275 1235	179 809
K $\frac{J}{I}$ 1戸当り人数	4.28人	4.63	4.49	4.52
L $\frac{A}{D}$ 田畑合計反当石高	3斗　8升　1合	3.6.2	2.0.8	4.1.6
M $\frac{A}{I}$ 1戸当り石高	1石　8斗　9升　3合	2.0.7.9	1.5.2.7	4.9.0.3
N $\frac{D}{I}$ 1戸当り田畑面積	4反　9畝	5.7	7.3	1町 1.7
O $\frac{H}{I}$ 1戸当り総面積	2町　4反　6畝	2.7.1	1.8.9	2.2.5

史料：『皇国地誌』・『明治7年甲戌11月改大小区別戸数人口調』（『愛甲郡制誌』所収）
備考：Aの村高は参考値である。明治3年以降、村の行政区割の再編があるため、諸資料をもとに推

語っている。それは一戸当りの石高と一戸当りの田畑面積を比較して見ても明らかであろう。

以上のように村高、田畑山林の存在状況、反当石高、戸数・人口、等を指標として見ただけでも、愛川町域農村の耕地には質の違いがあり、農業生産力には二倍から三倍の格差があることを知り得たであろう。愛川町は丹沢山塊から相模川に向って傾斜する複雑な自然環境に応じ、それぞれ異った村々によって構成されていたのである。

こうした村々では、それぞれにどの様な生業や生活が行なわれていたのであろうか。明治六年に調査された足利県第三大区四小区の村々が提出した「産物書上」を手掛りに検討して見よう。

二　明治六年の生産状況

表2は足利県第三大区四小区に属する九ケ村から、明治七年一月付けをもって提出された「産物書上」[5]を第一次産品（非加工品）、第二次産品（加工品）に分け、穀類（米・雑穀）、農産物（園疏類・桑）、畜産漁業（家禽畜類・魚類）、林業等（木材・薪炭）、繊維（糸、繭其他・織物）、食品（醸造・絞油・加工食品）、等々、品目別に整理集計したものである。この書上は、その表紙に

「

産物書上

第三大区四小区

愛甲郡　田代村　　」

と記され、

「　米弐百三拾石五斗弐升　　但現石

表2　明治6年足利県第三大区四小区の生産高表

			品名	単位	田代村 数量全	田代村 自用消費	田代村 他国輸出	田代村 貢納	半原村 数量全	半原村 自用消費	半原村 他国輸出	半原村 貢納	三増村 数量全	三増村 自用消費	三増村 他国輸出
					数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量
第一次産品／非加工品／	穀類	主穀	米	石	233.52	74.8	54.712	104	70.589	46.508		24.081			
		雑穀	大麦	石	228	228			395.7	395.7			300	300	
			小麦	石	101.2	101.2			300.3	300.3			390	240	150
			大豆	石	1.4	1.4							18	18	
			小豆	石	1	1			8	8			15	15	
			粟	石	106.5	106.5			340.72	340.72			432	432	
			稗	石	50	50			155.65	155.65			360	360	
			蕎麦	石					20.3	20.3			22.5	22.5	
	農産物	園疏類*	ゴボウ	把	120	120									
			人参	把	68	68									
			芋	俵	280	280									
			薩摩	俵	290	290									
			眉児	把	210	210									
			根葱												
			茄子	俵	110	110									
			菜種	石	2	2							35	35	
			胡瓜	俵	8	8									
			荏	石					—	—					
			胡麻	石	0.7	0.7			0.4	0.4			1.5	1.5	
			大根	本	7050	7050									
		桑	桑	駄	500	500			1200	1200			1500	1500	
	畜産	家禽	猫	疋											
			猪	疋											
			鶏	羽									500	500	
			鴨	羽									6	6	

	漁業	畜類	あひる	羽									4	4	
			豚	疋									6	6(種豚)	
		魚類	魚介　鮎	籠	375	150	225		500	200	300				
第二次産品／加工品／	林業等	木材	材木類												
			板(杉・松・樫)	駄	520		520		200	50	150				
		薪炭	薪	駄											
			炭	俵	1500		1500		1500	900	600		1000		1000
	繊維	糸	生糸	貫目	15.1		15.1		36	10	26		23.05		23.05
			屑糸・玉糸	貫目	6.34		6.34		16	10	6		15.3		15.3
		繭其他	蚕種紙												
			繭	石	38.5		38.5						自生糸		
			さなぎ												
		織物	織物・川和縞	疋					200		200				
			綿博多	反					500	150	350				
	食品	醸造	清酒	石	370	95	275		93.3	93.3			139	55.6	83.4
			酢	石											
			濁酒	石											
			味噌												
			醤油	石	95	35	60						30	21	9
		油	油												
		加工食品	素麺	箱											
			茶	貫目	5	5							250	250	
	生産手段	製品	藺蘆蒲菰敷物												
			唐ほうき	本											

			品名	単位	三増村	半縄村				角田村				八菅山	
					貢納	数量全	自用消費	他国輸出	貢納	数量全	自用消費	他国輸出	貢納	数量全	自用消費
					数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量
第一次産品／非加工品／	穀類	主穀	米	石		126.347	61.084		65.263	452.28	286.99		165.29	4.2	3.774
		雑穀	大麦	石		422.4	422.4			494.78	494.78			30	30
			小麦	石		431.2	272.8	158.4		446.68	416.68	28		96	96
			大豆	石										2	2
			小豆	石		8.8	8.8			7.5	7.5			0.55	0.55
			粟	石		440	440			824.64	824.64			40	40
			稗	石		167.2	167.2			206.16	206.16			25.5	25.5
			蕎麦	石		70.4	70.4			25	25			3	3
	農産物	園疏類	ゴボウ	把											
			人参	把											
			芋	俵											
			薩摩	俵											
			眉児	把											
			根葱												
			茄子	俵											
			菜種 *	石		5.28	5.28			30.9	30.9			0.8	0.8
			胡瓜	俵											
			荏 *	石											
			胡麻	石		0.88	0.88			1.25	1.25			0.3	0.3
			大根	本											
		桑	桑	駄		2640	2640			1800	1800			180	180
	畜産	家禽	猫	疋										15	15
			猪	疋											
			鶏	羽		528	528			300	300			30	30
			鴨	羽						6	6				

	漁業	畜類	あひる	羽		20	20			4	4			4	4
			豚	疋		10	10							2	2
		魚類	魚介　鮎	籠		120		120		400	200	200			
第二次産品／加工品／	林業等	木材	材木類											少々	
			板(杉・松・樫)	駄											
		薪炭	薪	駄										400	
			炭	俵										15	
	繊維	糸	生糸	貫目		96		96		43.4		43.4		4.951	
			屑糸・玉糸	貫目		36.48		36.48		15.36		15.36		2	2
		繭其他	蚕種紙												
			繭	石										55.8	
			さなぎ												
		織物	織物・川和縞	疋										少々	少々
			綿博多	反											
	食品	醸造	清酒	石		150		150		225		225			
			酢	石											
			濁酒	石											
			味噌												
			醤油	石		30		30		90		90			
		油	油												
		加工食品	素麺	箱						50		50			
			茶	貫目		52.8	52.8			75	75			6.5	6.5
	手産段生	菓子製品	藺蘆蒲菰敷物												
			唐ほうき	本											

			品名	単位	八菅山 他国輸出 数量	八菅山 貢納 数量	八菅村 数量全 数量	八菅村 自用消費 数量	八菅村 他国輸出 数量	八菅村 貢納 数量	能坂村 数量全 数量	能坂村 自用消費 数量	能坂村 自国輸出 数量	能坂村 他国輸出 数量	能坂村 貢納 数量
第一次産品／非加工品／	穀類	主穀	米	石		0.426	92.997	44.557		48.44	135.9	83.9			52
		雑穀	大麦	石			238	238	101.8		320	320			
			小麦	石			261.8	160			330	200		130	
			大豆	石											
			小豆	石			5.1	5.1			6.6	6.6			
			粟	石			256.5	256.5			330	330			
			稗	石			153	153			58	58			
			蕎麦	石			40.8	40.8			66	66			
	農産物	園疏類*	ゴボウ	把											
			人参	把											
			芋	俵											
			薩摩	俵											
			眉児	把											
			根葱				自用								
			茄子	俵											
			菜種	石			30.6	30.6			29.665	29.665			
			胡瓜	俵											
			荏	石											
			胡麻	石			0.51	0.51			0.66	0.66			
			大根	本											
		桑	桑	駄			1600	1600			1900	1900			
	畜産	家禽	猫	疋											
			猪	疋											
			鶏	羽			300	300			396	396			
			鴨	羽											

	漁業	畜類	あひる	羽			50	50							
			豚	疋											
		魚類	魚介　鮎	籠			160	80	80		110			110	
第二次産品／加工品／	林業等	木材	材木類		少々										
			板(杉・松・樫)	駄											
		薪炭	薪	駄	400						自用費				
			炭	俵	15										
	繊維	糸	生糸	貫目	7.951		63.5		63.5		80			80	
			屑糸・玉糸	貫目			17.6		17.6		30.4			30.4	
		繭其他	蚕種紙				180	134	46						
			繭	石	55.8		自生糸				自生糸				
			さなぎ				4.2		4.2						
		織物	織物・川和縞	疋											
			綿博多	反											
	食品	醸造	清酒	石			159		159						
			酢	石											
			濁酒	石							3.3		3.3		
			味噌								自用				
			醤油	石			52		52		20		20		
		油	油								9.6		9.6		
		加工食品	素麺	箱											
			茶	貫目			30.6	30.6			39.6	39.6			
	手段生産	製品	藺蘆蒲菰敷物												
			唐ほうき	本			2000		2000						

			品名	単位	下川入村 数量全	下川入村 自用消費	下川入村 自国輸出	下川入村 他国輸出	下川入村 貢納	合計 数量全	合計 自用消費	合計 自国輸出	合計 他国輸出	合計 貢納
					数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量	数量
第一次産品／非加工品／	穀類	主穀	米	石	434	268.8	21.2		144	1549.83	870.415	21.2	54.712	603.506
		雑穀	大麦	石	120	120				2548.88	2548.88	0	0	0
			小麦	石	150	130	20			2507.18	1916.98	20	568.2	0
			大豆	石						21.4	21.4	0	0	0
			小豆	石	2.4	2.4				54.95	54.95	0	0	0
			粟	石	236	236				3006.36	3006.36	0	0	0
			稗	石	60	60				1235.51	1235.51	0	0	0
			蕎麦	石	16	16				264	264	0	0	0
	農産物	園疏類*	ゴボウ	把						120	120	0	0	0
			人参	把						68	68	0	0	0
			芋	俵						280	280	0	0	0
			薩摩	俵						290	290	0	0	0
			眉児	把						210	210	0	0	0
			根葱									0	0	0
			茄子	俵						110	110	0	0	0
			菜種	石	20	20				154.245	154.245	0	0	0
			胡瓜	俵						8	8	0	0	0
			荏	石								0	0	0
			胡麻	石	0.4	0.4				6.6	6.6	0	0	0
			大根	本						7050	7050	0	0	0
		桑	桑	駄	562	562				11882	11882	0	0	0
	畜産	家禽	猫	疋						15	15	0	0	0
			猪	疋							0	0	0	0
			鶏	羽	200	200				2254	2254	0	0	0
			鴨	羽						12	12	0	0	0

	漁業	畜類	あひる	羽	20	20				102	102		0	0
			豚	疋	2	2				20	20		0	0
		魚類	魚介　鮎	籠						1665	630		1035	0
第二次産品／加工品／	林業等	木材	材木類								0		0	0
			板(杉・松・樫)	駄						720	50		670	0
		薪炭	薪	駄						400	0		400	0
			炭	俵						4015	900		3115	0
	繊維	糸	生糸	貫目						365.001	10		355.001	0
			屑糸・玉糸	貫目						139.48	12		127.48	0
		蘭其他	蚕種紙							180	134		46	0
			蘭	石	307.25			307.25		401.55	0		401.55	0
			さなぎ							4.2	0		4.2	0
		織物	織物・川和縞	疋						200	0		200	0
			綿博多	反						500	150		350	0
	食品	醸造	清酒	石	360			360		1496.3	243.9		1252.4	0
			酢	石	10			10		10	0		10	0
			濁酒	石						3.3	0	3.3	0	0
			味噌		40			40		40	0	0	40	0
			醤油	石	270	20		250		587	76	20	491	0
		油	油		1.6			1.6		11.2	0	9.6	1.6	0
		加食工品	素麺	箱	300			300		350	0	0	350	0
			茶	貫目	24	24				483.5	483.5	0	0	0
	手産段	薬品製	蘭蘆蒲菰敷物								0	0	0	0
			唐ほうき	本	2000			2000		4000	0	0	4000	0

史料：明治7年「産物書上」

内
米百四石八合　貢納
米七拾四石八斗　自用費消
米五拾石七斗壱升弐合　他国輸出
麦弐百弐拾八石　自用費消
小麦百壱石弐斗　自用費消
……

と各産物の生産量と自用費消、他国輸出、貢納の内分けを報告したものである。

まず「産物書上」の最初にあげられている米について見ると、米は皆畑である三増村を除く八ケ村で作られている。この地域の村はすでに指摘したように耕地に占める水田比率は平均一一・四四％と低く、当然のことながら自用すらまかなえない生産量であった。しかし、この「産物書上」から見ると、九ケ村の米生産高一五四九石八斗三升三合のうち三八・九四％に当る六〇三石五斗六合が貢租として納められ、三・五三％に当る五四石七斗一升一合が他国に輸出されている。自用費消は五六・一六％の八七〇石四斗一升五合であった。

表1で示した第三区四小区の家数は一五二一戸であるから、一戸平均の米の自用消費高は五斗七升二合ほどであった。四、五人の家族では一人平均一斗ほどしか米を食べられないのであり、農民はほとんど米を食べていないと考えられる。しかし、わずか三・五三％とは言え五四石七斗一升二合の米を他国に輸出し、三八・九四％に当る六〇三石余の米を貢租に納めていることは、関東では幕末期に米の代銭納化が一般化している状況を考えると米が持つ特殊な意味を明治六年という段階においても考えなければならない。

ところで、熊坂村、下川入村には他国輸出の外に自国輸出という記載が見られる。ここで言うところの自国、他国とはどういう内容を示すのか、自国とは県なり、郡なり、あるいは相模国を指すのか、あるいは足利県第三区、あるいは四小区を指しているのか、不明である。しかし、明治二六年三月一日に神奈川県知事に提出した田代村からの半原村分離の請願書[6]にあるように、田代村を半原村から分離し高峰村に併合すべき理由として住民達は自然条件、経済条件、民情風俗の異同に加え、その請願書の「附属書第二」には「愛川村田代ト高峰村トハ地勢人情ノ相同ジキノミナラズ、土地所有ノ上ニ於テモ其関係少ナカラズ田代人民ニシテ高峰村ノ土地ヲ所有スル事合計六拾弐町歩余ニシテ殆ンド田代ノ全畑地ト相同ジ、其他堤防区域ニ付キテモ其関係尠少ナラズ……」と記されている。

こうした意識の存在を前提に考えると、ここで言う自国とは地勢、人情、人間関係を地域の中で共通に持つ地域を表現したものであろう。したがって、ここで言われている自国とは大区よりも小区ぐらいの範囲の生活圏、経済圏を指しているように思われる。次に雑穀について見ることにしよう。

雑穀のうち、最も生産量の多いのは小区全体で三〇〇六石余の生産高のある粟、次いで二五四八石余の大麦、二五〇七石余の小麦、一二三五石余の稗となっている。蕎麦、大豆、小豆は二六四石、二一石、五四石と、それほど多くはない。

これらの雑穀のうち村外に輸出されているのは小麦だけであり、その量も四小区全体の小麦生産量の二二％に過ぎなかった。雑穀は自用のための生産物であり、農民は米以外の雑穀を主食としていたことを示している。

また園疏類も全て自村費消であり、しかも、人参、大根、茄子、芋等の品目は田代村にのみ書きあげられ、他の八ケ村には記載されていない。疏菜類の商品性が基本的には認識されていないことを示すものであろう。これに対し、量的にも極めて少なく、また他村売りもない菜種、胡麻が半原村を除く八ケ村で書きあげられていることは、桑とと

もに菜種、胡麻が商品性の高い作物として認識されていることを物語っている。

畜産、魚類は自用が中心であり、量的にも少ない。ただ中津川等この地域を流れる河川での鮎の六三％が村外に販売されていることが注目される。しかし、それとても、初夏から秋にかけての余業の域を出ていないと思われる。総じて、この地域の村々の農業は自給性が強く、いわゆる商品作物の生産はこの時期には全く展開していなかったと見るべきであろう。次に第二次産品、加工生産物について見ることにしよう。

まず林産業について見ると、板と薪炭生産が中心で、板の生産は田代村と半原村の二村で生産され、薪炭は田代村、半原村、三増村、八菅村で生産されているが、田代村、半原村、三増村では薪の生産はなく、炭のみが生産されている。これに対し八菅村では薪のみが生産されている。原材料から考え薪と炭生産は同質に考えがちであるが、異質の生産と考えるべきことを示しているように思われる。

板、薪、炭は板の場合は九三％、薪の場合は一〇〇％、炭は七八％が他国輸出であり、この地域の山稼は他国輸出を目的とした生産であると考えられる。

次に繊維生産量を見ると生糸が三六五貫、屑糸が一三九貫、合計五〇四貫、繭が四〇一石余りである。織物は半原村に川和縞等が二〇〇疋、五〇〇反あるに過ぎない。生糸は下川入村を除いた愛川町に属する八ケ村全てで生産され、繭は田代村、八菅村、下川入村の三ケ村にのみ記載され、他の六ケ村には記載がない。半原村はこの地域の養蚕業の中心村でもあり、また表2の第一次産品の桑生産高を見ても全ての村で桑の生産が行なわれていることから考えても、これら六村で養蚕業がおこなわれていなかったとは考えられない。生糸生産高の記載がなく、逆に繭生産の記載がある下川入村は養蚕のみがおこなわれ、繭を他村の製糸家に販売しているものと考え得るが、繭生産（養蚕業）の記載のない六ケ村では自用の繭は記載しなかったと考えるべきであろう。田代村、八菅村、下川入村の場合は村内の

生糸生産で消費した残余の繭が記載されたと考えるべきであろう。事実、この三村の繭は全て他国輸出と記載されている。

生糸は九七%、屑糸・玉糸は九一%、ほとんどが他国輸出であり、織物の場合は七八%が他国輸出品であった。蚕種は七四%が自用費消であった。蚕種を自給していたことが注目される。この地に展開する養蚕、製糸業は他国輸出を目的とした商品生産であった。

食品加工等の中心は酒、醤油等の醸造、絞油、素麺・茶等の加工が中心である。醸造のうち量の多いのは清酒で次いで醤油が多い。清酒の場合は八四%、醤油の場合は八四%が他国輸出であった。その他の酢、濁酒、味噌も他国、もしくは自国輸出が多いが量的には問題にならないほど少ない。これらの醸造品は、必ずしもどの村でも生産されたものではない。油の生産は熊坂村、下川入村でわずかに生産が認められるに過ぎない。その他の食品加工のうち素麺は全てが他国輸出品であったが角田村と下川入村の二村のみの記載であり、量も少ない。茶は田代村、半原村を除く七カ村で生産されているが、全てが自用費消＝自家消費されるものであり商品として生産されたものではない。

以上のようにこの地域の雑穀をはじめとする農産物生産は自給部分すらまかないきれないものであった。これに対し、林産物、繊維、醸造等の食品加工は他国向けの商品生産であったと言える。その中心は薪炭ならびに養蚕・製糸生産であり、清酒、醤油等の醸造業であった。

ところで、各生産物がそれぞれの村の経済にとって、どの様な比重を占めていたのであろうか。「産物書上」では単位も異なるし、生産額の表示もないため、検討し得ない。幸い、田代村と三増村には先に述べたように、「皇国地誌」が完全な形で残されている。そこには明治一五年のものではあるが、産物の単価と生産額が品目各に残されている。次にこの単価をもとに明治六年の「産物書上」の産額を推定し、検討して見ることにしたい。

三　産物構成から見た村の類型

表3は皇国地誌から田代村、三増村の産物の単価を書き出したものである。そこに示されている産物はそれぞれの村で生産される全ての産物の価格であり、自製の民具から、鶏糞、蚕糞などの自給肥料にいたるまで生産額計算がおこなわれている。そのことの意味については後述することにしたい。

ところで、同じ年であっても産物の価格は田代村と三増村ではかなり異るものもあり、また、片方の村にしか存在しないものもある。両村の間に価格の違いがあるものの単価はその平均値を更に両村の皇国地誌にないものの価格は同じ愛甲郡の愛甲村、船子村、恩名村の単価を採用した。

表3によると田代村、三増村両村にある産物は五五種であり、そのうち価格に差がないものは一〇種、田代村の方が価格が高いものは二七種、逆に三増村の方が高いものは一八種である。その価格差は品目により異るが、ここでは田代村と三増村という、きわめて近い村の間でも、明治一五年段階にはかなり価格差があることを指摘するにとどめたい。

この価格差が価値法則の展開、市場形成の未熟さを示すものなのか、両村の換算価格を選定した時期の違いを示すものなのか、後者の場合においても物価変動が年間を通して、かなり大きいことを意味する。こうした点を含めて、価格差の内容と意味を明らかにする作業は今後に残された課題である。それでは、表4を検討することにしよう。

まず四小区全体で見ると、第一次産品（非加工品）である農産物の生産額は総生産額の五六、一七％であり、農業外の第二次産品の生産額は四三、八三％である。この地域の村が農業以外の商品生産に依存していることがわかる。農産物のうち最も多いのは穀類生産で、農産物生産額三四二五九円のほぼ九〇％を占めていた。第二次産品、即ち農外

表3　明治15年の物価表

	単位	1単位当(円)田代村	1単位当(円)三増村	平均(円)
米	石	5		
大麦	石	2.02	2.00	2.01
小麦	石	3.7	3.33	3.52
大豆	石	4.35	4.00	4.18
小豆	石	6.67	6.25	6.46
粟	石	2.38	2.22	2.30
稗	石	1	1.00	1.00
蕎麦	石	2.5	2.86	2.68
陸稲	石		3.93	
小麦粉	貫匁		1.11	
麺粉	貫匁	2.63		
蕎麦粉	貫匁	4	0.22	2.11
清酒	石		4.30	
焼酎	石	10	6.00	8.00
濁酒	石		3.90	
味噌	貫匁	0.26	1.03	0.64
醤油	石	5.57	5.50	5.54
菜	荷	0.15	0.25	0.20
スズシロ	荷	0.06	0.15	0.11
胡スズシロ	荷	0.32	0.20	0.26
蕪口	荷		0.15	0.07
午蒡	荷	0.45	0.30	0.38
里芋	荷	0.13	0.24	0.19
甘藷	貫匁	0.02	0.15	0.09
葱	荷	0.6	1.00	0.80
茄子	荷	0.33	0.50	0.42
隠元豆	荷	0.67		
菜子	石	5.88	0.50	3.19
胡瓜	荷		0.50	
荏子	石		4.91	
胡麻	石	8.33	5.51	6.92
梯子	荷	0.33	0.15	0.24
栗子	石	5		
梅子	荷	0.2	0.30	0.25
柚子	荷	0.6		
荏油	石	28.95	23.68	26.32
菜子油	石	23.68	22.37	23.02
猪	頭		2.50	
鶏	羽	0.1	0.10	0.10
鶏卵	顆	0.01	0.01	0.01
豚	頭		2.00	1.00
香魚	尾	0.038		
鰻	貫匁	0.7		
泥鰌	貫匁	0.3		
製茶	斤	0.25	0.30	0.28
漬梅	樽	0.63	0.40	0.52
豆腐	挺	0.01	0.02	0.01
雑菓子	箱	1		
煙草	斤	0.09		
葉煙草	斤		0.05	
生糸（平均）	貫匁	40	28.25	34.13
生糸上等	貫匁		28.58	
生糸中等	貫匁		27.03	
ノシ糸	貫匁		8.33	
玉糸（平均）	貫匁		12.50	
玉糸上等	貫匁		12.50	

	単位	1単位当(円)田代村	1単位当(円)三増村	平均(円)
玉糸中等	貫匁		12.50	
皮剥糸	貫匁		2.50	
屑糸	貫匁	10		
繭（平均）	貫匁	5	2.87	3.94
繭中等	貫匁		3.00	
繭下等	貫匁		2.50	
大繭中等	貫匁		3.33	
大繭下等	貫匁		2.50	
木綿縫糸	貫匁	2		
木綿織糸	貫匁	2		
博多帯地	筋	1.16		
木綿織物	反	0.75	0.75	0.75
ノシ糸織物	反		1.50	0.75
麦稈薦	枚		0.03	0.01
藁ムシロ	枚	0.05	0.05	0.05
藁莚	枚	0.01		
鎌	枚	0.13	0.14	0.14
鍬	枚	1	1.00	1.00
釘	本	0.004	0.30	0.15
手桶	個		0.10	0.05
タライ	個		0.25	0.13
樽	個		0.08	0.04
戸	枚		0.38	0.19
障子	枚		0.31	0.16
貫材	挺	0.06	0.05	0.06
松板	枚	0.03	0.03	0.03
杉板	枚	0.03	0.04	0.04
屋根板	束		0.03	
口板	枚	0.03		
大竹	本	0.1	0.05	0.07
小竹	束	0.1	0.08	0.09
タケノカワ	束	0.04	0.10	0.07
杉皮	束	0.03	0.04	0.04
桑葉	束	0.12	0.11	0.12
藁縄	房	0.004		
草鞋	足	0.01		
馬沓	足	0.01		
苗代ダイコン	荷	0.03		
乾草	駄	0.1	0.15	0.13
刈豆	荷	0.02	0.03	0.03
葉エンドウ	荷	0.1		
油滓	枚	0.29	0.50	0.40
酒糟	ツト	0.29	0.50	0.40
醤油口	包		0.25	
鶏屎			0.25	
糠		0.78	0.71	0.75
鰯		0.5	0.50	0.50
豆腐滓	石	2	1.00	1.50
蚕屎		0.3	0.26	0.28
ソダ	束	0.02	0.02	0.02
薪	貫匁	0.003	0.00	0.00
炭		0.1	0.09	0.10
小麦ワラ	束	0.002	0.00	0.00
藁	束	0.001		
真聳	束		0.01	0.00

史料：「皇国地誌」より作成

表 4　明治 6 年足利県第三大区四小区の生産額表

			田代村		半原村		角田村		三増村		熊坂村	
第一次産品 非加工品	穀類	主穀	15.07% 1167.6	18.24%	4.55% 352.95	5.81%	29.18% 2261.4	21.49%	0.00% 0	0.00%	8.77% 679.5	9.32%
		雑穀	4.82% 1121.766	17.52%	12.46% 2897.8	47.71%	20.58% 4785.1	45.47%	15.32% 3561.8	61.40%	12.22% 2841.316	38.96%
	小計		7.39% 2289.366	35.76%	10.49% 3250.75	53.52%	22.73% 7046.5	66.95%	11.49% 3561.8	61.40%	11.36% 3520.816	48.27%
	農産物	園疏類	66.33% 1037.324	16.20%	0.18% 2.768	0.05%	6.86% 107.221	1.02%	7.80% 122.03	2.10%	6.34% 99.19855	1.36%
		桑	4.21% 60	0.94%	10.10% 144	2.37%	15.15% 216	2.05%	12.62% 180	3.10%	15.99% 228	3.13%
	小計		36.70% 1097.324	17.14%	4.91% 146.768	2.42%	10.81% 323.221	3.07%	10.10% 302.03	5.21%	10.94% 327.19855	4.49%
	畜産漁業	家禽畜類	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	11.74% 31.5	0.30%	23.66% 63.5	1.09%	14.75% 39.6	0.54%
		魚類	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	100.00% 1.6	0.02%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%
	小計		0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	12.26% 33.1	0.31%	23.5% 63.5	1.09%	14.67% 39.6	0.54%
合計			9.89% 3386.69	52.91%	9.92% 3397.518	55.94%	21.6% 7402.821	70.34%	11.46% 3927.33	67.70%	11.35% 3887.6146	53.30%
第二次産品 加工品	繊維	糸	4.18% 578.763	9.04%	10.03% 1388.7	22.87%	11.80% 1634.84	15.53%	6.78% 939.7	16.20%	21.91% 3034.4	41.60%
		繭其他	9.59% 151.69	2.37%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%
		繊維	0.00% 0	0.00%	100.00% 730	12.02%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%
	小計		4.52% 730.453	11.41%	13.11% 2118.7	34.88%	10.11% 1634.84	15.53%	5.81% 939.7	16.20%	18.77% 3034.4	41.60%
	食品	醸造	21.77% 2117.3	33.08%	4.13% 401.19	6.61%	15.08% 1466.1	13.93%	7.86% 763.9	13.17%	1.27% 123.67	1.70%
		油	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	85.71% 236.736	3.25%
		加工食品	1.03% 1.4	0.02%	0.00% 0	0.00%	15.51% 21	0.20%	51.71% 70	1.21%	8.19% 11.088	0.15%
	小計		20.90% 2118.7	33.10%	3.96% 401.19	6.61%	14.67% 1487.1	14.13%	8.23% 833.9	14.38%	3.67% 371.494	5.09%
	林業等	木材	72.22% 15.6	0.24%	27.78% 6	0.10%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%
		薪炭	36.28% 150	2.34%	36.28% 150	2.47%	0.00% 0	0.00%	24.18% 100	1.72%	0.00% 0	0.00%
	小計		38.06% 165.6	2.59%	35.85% 156	2.57%	0.00% 0	0.00%	22.98% 100	1.72%	0.00% 0	0.00%
合計			11.28% 3014.753	47.09%	10.01% 2675.89	44.06%	11.68% 3121.94	29.66%	7.01% 1873.6	32.30%	12.74% 3405.894	46.70%
総計			10.50% 6401.443	100.00%	9.96% 6073.408	100.00%	17.26% 10524.761	100.00%	9.51% 5800.93	100.00%	11.96% 7293.5086	100.00%

			半縄村		八菅村		八菅山		下川入村		合計	
第一次産品 非加工品	穀類	土穀	8.15% 631.74	6.79%	6.00% 464.985	7.27%	0.27% 21	1.88%	28.00% 2170	26.84%	100.00% 7749.175	12.70%
		雑穀	16.31% 3791.57	40.76%	9.83% 2285.156	35.72%	2.30% 535.673	47.98%	6.15% 1430.384	17.69%	100.00% 23250.57	38.12%
	小計		14.27% 4423.31	47.55%	8.87% 2750.141	42.99%	1.80% 556.673	49.86%	11.61% 3600.384	44.53%	100.00% 30999.745	50.82%
	農産物	園疏類	1.47% 22.9328	0.25%	6.47% 101.1432	1.58%	0.30% 4.628	0.41%	4.26% 66.568	0.82%	100.00% 1563.814	2.56%
		桑	22.22% 316.8	3.41%	13.47% 192	3.00%	1.51% 21.6	1.93%	4.73% 67.44	0.83%	100.00% 1425.84	2.34%
	小計		11.36% 339.7328	3.65%	9.81% 293.1432	4.58%	0.88% 26.228	2.35%	4.48% 134.008	1.66%	100.00% 2989.654	4.90%
	畜産漁業	家禽畜類	27.12% 72.8	0.78%	11.18% 30	0.47%	2.61% 7	0.63%	8.94% 24	0.30%	100.00% 268.4	0.44%
		魚類	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	100.00% 1.6	0.00%
	小計		26.96% 72.8	0.78%	11.11% 30	0.47%	2.59% 7	0.63%	8.89% 24	0.30%	100.00% 270	0.44%
合計			14.12% 4835.8428	51.98%	8.97% 3073.2842	48.04%	1.72% 589.901	52.84%	10.97% 3758.392	46.49%	100.00% 34259.399	56.17%
第二次産品 加工品	繊維	糸	26.29% 3641.28	39.14%	16.92% 2343.255	36.63%	2.10% 291.3676	26.10%	0.00% 0	0.00%	100.00% 13852.31	22.71%
		繭其他	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	13.90% 219.852	19.69%	76.5% 1210.57	14.97%	100.00% 1582.112	2.59%
		繊維	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	100.00% 730	1.20%
	小計		22.53% 3641.28	39.14%	14.50% 2343.255	36.63%	3.16% 511.2196	45.79%	7.49% 1210.57	14.97%	100.00% 16164.422	26.50%
	食品	醸造	8.34% 811.2	8.72%	9.99% 971.78	15.19%	0.00% 0	0.00%	31.56% 3069.4	37.97%	100.00% 9724.54	15.94%
		油	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	14.29% 39.456	0.49%	100.00% 276.192	0.45%
		加工食品	10.92% 14.784	0.16%	6.33% 8.568	0.13%	1.34% 1.82	0.16%	4.96% 6.72	0.08%	100.00% 135.38	0.22%
	小計		8.15% 825.984	8.88%	9.67% 980.348	15.33%	0.02% 1.82	0.16%	30.74% 3115.576	38.54%	100.00% 10136.112	16.62%
	林業等	木材	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	100.00% 21.6	0.04%
		薪炭	0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	3.26% 13.5	1.21%	0.00% 0	0.00%	100.00% 413.5	0.68%
	小計		0.00% 0	0.00%	0.00% 0	0.00%	3.10% 13.5	1.21%	0.00% 0	0.00%	100.00% 435.1	0.71%
合計			16.71% 4467.264	48.02%	12.43% 3323.603	51.96%	1.97% 526.5396	47.16%	16.18% 4326.146	53.51%	100.00% 26735.634	43.83%
総計			15.25% 9303.1068	100.00%	10.49% 6396.8872	100.00%	1.83% 1116.4406	100.00%	13.25% 8084.538	100.00%	100.00% 60995.02	100.00%

史料：明治7年「産物書上」，明治15年「皇国地誌」

加工生産のうち最も多いのは養蚕、製糸を中心とした繊維生産であり、全体の二六、五％に当る一六一六四円余の生産額をあげている。次に多いのは清酒、醤油を中心とする醸造業であり、全体の一六、六二％を占めている。木材（板）、薪炭生産は田代村、半原村では多少の意味を持つが四小区全体では〇、七一％と、村の経済にはほとんど量的意味を持っていない。

前節で明らかにしたように穀類であれ、園疏類であれ、農産物は自用を中心とした、しかも農民の生活を維持する量としては必ずしも十分ではなかった。したがって、ここに示される生産額は名目的な数値で貨幣流通をともなわないものである。これに対し養蚕・製糸を始めとする第二次産品（加工品）は前節で明らかにしたように他国輸出が中心で貨幣流通をともなうものである。したがってこの村の農民達の現金収入はこれら第二次産品の生産に依存していたと言えよう。

養蚕、製糸を中心とした繊維生産は全ての村でおこなわれ、村によっては三〇％から四五％の高い比率を占めている。これに対し、清酒・醤油を中心とする醸造生産は、村によって生産額に格差があり、ほとんど生産されていない村もある。しかも醸造業は個人の資力に依存することが多く、村経済、なかんずく農民にとっての意味は養蚕、製糸業とは異っていると思われる。したがって、直接、農民経済にかかわる商品生産は、この地域では養蚕・製糸生産にあったと考えられる。その依存度第二次産品のほぼ五八％、全産額の二五％余であった。

ところで、四小区全体の総生産額の五六、一七％を占める第一次産品（農産物）について、ややくわしく見ると、この九ケ村の中にも平均値より高く、比較的農産物の生産比率が高い角田村（七〇、三四％）、三増村（六七、七〇％）、生産比率の低い八菅村（四八、〇四％）、下川入村（四六、四九％）がある。他の五ケ村は五一％～五六％であった。

次に繊維生産を見ると、当然のことながら農産物生産額が全生産額のほぼ七〇％を占める角田村、三増村の場合は

繊維生産額の占める比率は一五、五三%、一六、二〇%と低い。

この両村を除いた七ケ村は農産物が全体の四五%から五六%を占め、それほどの違いはない。その七ケ村の繊維生産を見ると、最もその比率が高いのは全生産額の四五、七九%を占める八菅山村であり、熊坂村、(四一、六〇%)半縄村(三九、一四%)、八菅村(三六、六三%)が右二村に次いで高い。これらの村には繭、織物はなく、余業の中心が製糸生産にあったことを物語っている。

ところで右の四ケ村のうち、八菅山村の繊維生産額は四五、七九%と四小区の村々の中で最も高いが、生産額は全体のわずか三、一六%に過ぎない。しかも、村外輸出の繭が繊維生産額の四三%を占めており、必ずしもこの地域の生糸生産の中核的村だと見ることは出来ない。むしろ自村で生産された繭を自村に展開する製糸生産では消費しきれない村であったと見るべきであろう。

後に中津村として併合された熊坂村、半縄村、八菅村はそれぞれの村の全生産額に占める生糸生産量の比率も四小区の中では高く、しかも、各村の生糸生産額も四小区の総生産額のそれぞれ二一、九一%、二六、二九%、一六、九二%、三村合わせると六五、一二%を占めている。しかもこの三村には繭、織物の記載はない。こうした点から考え、この三村が四小区の中で養蚕、製糸業が最も盛に行なわれた村であったと言えよう。

ところで、半原村の場合は全生産額に対する繊維生産額の比率は三四、八九%と高いが、一二、〇二%に当る七三〇円の織物生産額が含まれている。同村の生糸生産額の占める比率は二二、八七%であり、熊坂村、半縄村、八菅村と同様に生糸生産の比重が高く、養蚕、製糸生産の中核的村であったと言える。しかし、熊坂以下三村と違い、同村には一二、〇二%に当る七三〇円の織物生産があり、それは四小区の織物生産の全てであった。

田代村と下川入村は繊維生産額の四小区の総生産額に対する比率は四、五二%、七、四九%と低く、村の全生産額

に対する比率も一一、四一％、一四、九七％と極めて低い。両村とも繊維生産は大きな比重を占めていない。しかし、田代村の場合は総生産額の九、〇四％とは言え、生糸生産があるが、下川入村の場合は生糸生産はなく、村の総生産額の一四、九七％に当る繊維生産額は全て繭の生産額であった。下川入村は四小区の村の中では養蚕のみが行なわれていた村であったのである。田代村も下川入村も四小区の醸造生産額の二一、七七％、三一、五六％に相当する清酒・醤油の醸造を行ない、その村の総生産額に占める比率も三三、〇八％、三七、九七％と高い比重を占めていた。この二村には他の七ヶ村に比べ、かなり経営規模の大きい醸造家＝地主が存在していたのであろう。

以上、明らかにしてきたように四小区の村は次の四類型に類別出来るであろう。

(A)農業生産が村の総生産のほぼ七〇％を占め、製糸生産がほぼ一五％と中位の展開を示す角田村、三増村。この二村は養蚕も村内需要を満す程度にしか展開していない。

(B)農業生産は全生産額の五〇％前後であり、生糸生産が三六～四一％と高い比率を示し、生産額も三村で四小区の五六％を占める生糸生産の中核に位置する。熊坂村、半縄村、八菅村。（この三村は併合され中津村となる）

(C)(B)の三村と同様に生糸生産の比重が高いが、養蚕、製糸生産とともに四小区の中では唯一織物生産がおこなわれている半原村。

(D)農業生産が五〇％であるにもかかわらず、養蚕、製糸生産が一一、四一％、一四、九七％と低く、清酒醸造が三三、一〇％、三八、五四％と高い比重を占めている田代村、下川入村。下川入村は養蚕のみが行なわれている。

田畑農業の占める割合、生繭等の繊維生産の占める割合、およびその生産額の四小区の産額に占める割合から見ると右の様な村の類型が見えてくる。これらの類型の性格、各村の生産のあり様をやや生産力的に見ることにしよう。

表5は表一の田畑反別、戸数を基礎に、各村の反当農産額、一戸当りの農産額、糸・繭生産額、総生産額を示した

表5　1戸当り生産額比較表

	類　　型	A		B		C	D		計
		角田村	三増村	中津村	八菅山村	半原村	田代村	下川入村	
a	田畑反別	2108反	2013	4949	70	1909	799	1000	12848
b	戸数	179戸	275	403	32	385	139	108	1521
c	農産物産額	7402円	3927	11797	590	3397	3386	3758	34257
d	糸繭生産額	1634円	939	9019	511	1388	730	1210	15431
e	総生産額	10524円	5800	22993	1116	6073	6401	8084	60991
f	$\frac{c}{a}$ 反当農産額	3.51円銭	1.95	2.38	8.43	1.78	4.24	3.76	2.67
g	$\frac{c}{b}$ 1戸当り農産額	41.35円銭	14.28	29.27	18.44	8.82	24.36	34.80	22.52
h	$\frac{d}{b}$ 1戸当り糸繭産額	9.34円銭	3.41	22.56	15.97	3.61	5.25	11.20	10.15
i	$\frac{e}{b}$ 1戸当り総産額	58.79円銭	21.09	57.05	34.88	15.77	46.05	74.85	40.10
j	$\frac{a}{b}$ 1戸当り田畑所有高	11.78反	7.32	12.29	2.18	4.96	5.75	9.26	8.43

ものである。これ等の数値は村民が一律に農業、養蚕、製糸生産をおこなっているとの前提に立っている。一戸当りの農産額の場合は全ての家が農業を行なっていると考えられるで、農業生産力を表現していると考え得るが、一戸当りの糸繭生産額の場合は養蚕・製糸農家数が不明であり、したがって直ちに一戸当りの生産力を表現していないかも知れない。しかし村総体としての養蚕製糸業の展開度は示していると思われる。

まず反当農産額を見ると平均二円六七銭、最も低いのは半原村の一円七八銭、最も高いのは八菅山村の八円四三銭である。小村である八菅山村を除くと、田代村の四円二四銭が最も高い。全体的には二倍程の開きである。反当農産額は地味の善悪、土地生産力の高下を示すと思われる。

反当農産額を右の様に考えると、一戸当の農産額は反当農産額と非照応的な数値を示している。例えば反当農産額が四円二四銭の田代村の一戸当りの農産額は二四円三六銭であるのに対し、田代村より低い角田村の一戸当りの農産額は四一円三五銭とかなり多い。そのことは村によって一戸平均の耕地所有面積にかなりの差があることを示している。一戸当りの耕地所有面積の多いのは中津村、角田村で、両村ともおよそ一町二反であった。次いで下川入村でおよそ九反である。この三村は四小区の平均耕地所有規模八反四畝を上廻っているが、他の四ヶ村は平均値を下廻っている。八菅山村、半原村は二反、四反九畝と低い。八菅山村は極めて小さい新開村であるが、この四小区の中では戸数が最も多い、その点から見ると四小区の中核に位置する半原村の平均耕地所有規模が少ない点は注目される。このことは農村の集落形成、人口密度が必ずしも、村の耕地の地味、生産力に規定されていないことを物語っている。

四　田代村、三増村の明治十五年の生産構造

すでに指摘しておいたように、愛川町域農村の皇国地誌は全て『神奈川県皇国地誌残稿』の下巻に収録されている。

そのうち、完全な形で収録されている田代村、三増村の皇国地誌から明治一五年の両村の物産状況を示したのが表6、表7である。

田代村は表1で明らかなように、愛川町域農村の中では田の比率が三三、四六％と最も高く、米の産額は穀類産額の明治六年では五一％、明治一五年には六〇％を占めている。これに対し、三増村は愛川町域農村の中では唯一、田のない、皆畑の農村であった。田の比率が三八、二五％と最も高い下川入村を含めても四小区の平均水田比率は一一％である。

右の点から見ると、田代村と三増村の明治一五年の生産概況を明治六年の生産概況との関連において明らかにすることは、この地域で対極に位置する農村における明治前期の商品生産展開のあり様を明らかにすることになるであろう。

表6、表7を見て、まず気が付くことは、表2の明治六年の産物調査と比べ品目、つまり産物の種類の多いことである。穀類は両村とも変化はない。ただ、三増村の場合は明治一五年に穀類産額の五％ではあるが、五九石、産額にして二三五円の陸稲の生産が行なわれていることが注目される。園疏類も種類は多くなっているが、それほど大きな変化はない。其他の農産物では果実と鶏・豚といった家禽類があがっている。豚はともかく、鶏は明治六年にも飼育されていたであろう。

いずれにしても、これら農産品はこの村の戸数、人口から判断して基本的には自用を目的としたものであったと考えられ、明治一五年には、そうした自給的部分についても調査を行なったと考えるべきであろう。

この点は林産物、繊維製品、醸造、絞油・其他の加工食品、藁製品等の生産手段等の第二次産品（加工品）についても言えることである。例えば田代村の竹類にしても、大竹は三〇本でわずか五円、竹皮にいたっては八〇銭である。

表6　明治15年田代村物産表

			1単位当（円）	物産品名	量	単位	金額（円）	小計A（円）	%	小計B（円）	%	小計C（円）	%
第一次産品／非加工品／	穀類	主穀	5.00	米	426.75	石	2133.75	2133.75	14.58%				
		雑穀	2.02	大麦	180.45	石	364.9						
			3.70	小麦	144.42	石	534.888						
			4.35	大豆	5.625	石	24.457						
			6.67	小豆	5.5	石	36.666						
			2.38	粟	142.538	石	339.375						
			1.00	稗	76.38	石	76.38						
			2.50	蕎麦	20.36	石	50.9	1427.566	9.76%	3561.316	24.34%		
	農産物	園疏類	0.03	苗代ダイコン	950	荷	28.5						
			0.45	牛旁	33	荷	14.85						
			0.13	里芋	1875	荷	250						
			0.02	甘藷	9372	貫匁	156.25						
			0.60	葱	20	荷	12						
			0.33	茄子	91	荷	30.333						
			0.67	隠元豆	9	荷	6						
			5.88	菜子	16.8	石	98.823						
			8.33	胡麻	0.882	石	7.35						
			0.15	菜	120	荷	18						
			0.06	スズシロ	1680	荷	100.8						
			0.32	胡スズシロ	20	荷	6.3						
			0.10	葉エンドウ	35	荷	3.5						
			0.02	刈豆	1250	荷	30	762.706	5.21%				
		果実	0.33	梯子	29	荷	9.57						
			5.00	栗子	1	石	5						
			0.20	梅子	6	荷	1.2						
			0.60	柚子	2	荷	1.2	16.97	0.12%				
		桑其他	0.12	桑葉	4080	束	476						
			0.10	乾草	125	駄	12.5						
			0.002	小麦ワラ	18000	束	37.5	526	3.59%	1305.676	8.92%		
	畜産漁業	家禽	0.10	鶏	98	羽	9.8						
			0.01	鶏卵	2700	顆	13.5	23.3	0.16%				
		魚類	0.0038	香魚	8450	尾	32.5						
			0.70	鰻	15	貫匁	10.5						
			0.30	泥鰌	3	貫匁	0.9	43.9	0.30%	67.2	0.46%	4934.192	33.72%
	林業	木材	0.06	貫材	500	挺	27.777						
			0.03	松板	5000	枚	142.85						
			0.03	杉板	2500	枚	83.333						
			0.03	槙板	3000	枚	100						
			0.03	杉皮	520	束	17.333	371.293	2.54%				

第二次産品／加工品／	等	竹類	0.10	大竹	50	本	5					
			0.10	小竹	120	束	12					
			0.04	タケノカワ	20	束	0.8	17.8	0.12%			
		薪炭	0.0031	薪	105800	貫匁	330					
			0.10	炭	700		70					
			0.02	ソダ	5500	束	82.5	482.5	3.30%	871.593	5.96%	
	繊維	糸繭	40.00	生糸	42	貫匁	1680					
			10.00	口糸	15	貫匁	150					
			5.00	繭	135	貫匁	675	2505	17.12%			
		木綿糸織維	2.00	木綿縫糸	5.5	貫匁	11					
			2.00	木綿織糸	4	貫匁	8					
			1.16	博多帯地	250	筋	290					
			0.75	木綿織物	180	反	135	444	3.03%	2949	20.15%	
	食品	醸造	6.00	清酒	470	樽	2820					
			10.00	焼酎	12	石	120					
			0.26	味噌	945	貫匁	242.4					
			5.57	醤油	230	石	1280	4462.4	30.50%			
		油	28.95	荏油	0.38	石	11					
			23.68	菜子油	2.28	石	54	65	0.44%			
		加工食品	2.63	麺粉	216.63	貫匁	570.079					
			4.00	蕎麦粉	16.288	貫匁	65.155					
			0.25	製茶	80	斤	20					
			0.63	漬梅	2	樽	1.25					
			0.01	豆腐	1512	挺	21.168					
			1.00	雑菓子	20	箱	20					
			0.09	煙草	50	斤	4.5	702.152	4.80%			
		その他	0.29	酒糟	188	ツト	53.7					
			0.78	糠	225		176					
			0.50	麺	100		50					
			2.00	豆腐滓	1.8	石	3.6	283.3	1.94%	5512.852	37.67%	
	生産手段	藁製品	0.002	藁	42000	束	70					
			0.05	藁莚	250	枚	12.5					
			0.01	藁茣	60	枚	0.6					
			0.004	藁縄	2500	房	10					
			0.01	草鞋	2500	足	20					
			0.01	馬沓	1200	足	12	125.1	0.85%			
		鉄製品	0.13	鎌	30	枚	3.75					
			1.00	鍬	20	枚	20					
			0.0004	釘	350000	本	140	163.75	1.12%			
		肥料	0.29	油滓	110	枚	31.46					
			0.30	蚕屎	150		45	76.46	0.52%	365.31	2.50%	9698.755 66.28%
総計							14632.947	14632.95	100%	14632.95	100%	14632.95 100%

表7　明治15年三増村物産表

		1単位当（円）	物産品名	量	単位	金額（円）	小計A（円）	%	小計B（円）	%	小計C（円）	%
穀類	主穀	0	米	0	石		0	0.00%				
	雑穀	2.00	大麦	369.11	石	738.28						
		3.33	小麦	671.87	石	2239.566						
		4.00	大豆	30	石	120						
		6.25	小豆	10.65	石	66.562						
		2.22	粟	397.2	石	882.67						
		1.00	稗	151	石	151						
		2.86	蕎麦	68.4	石	195.42						
		3.93	陸稲	59.997	石	235.99	4629.488	21.71%	4629.488	21.71%		
農産物	園芸類		苗代ダイコン		荷							
		0.30	牛蒡	102	荷	30.6						
		0.24	里芋	1234	荷	300.855						
		0.15	甘藷	1428	貫匁	214.2						
		1.00	葱	105	荷	105						
		0.50	茄子	432	荷	216						
			隠元豆		荷							
		0.50	菜子	97.55	石	48.77						
		0.50	胡瓜	85	荷	42.5						
		4.91	荏子	7.5	石	36.8						
		5.51	胡麻	2.3	石	12.679						
		0.25	菜	100	荷	25						
		0.15	スズシロ（ダイコン）	1362	荷	204.3						
		0.20	胡スズシロ（ダイコン）	113	荷	22.6						
		0.15	蕪菁	113	荷	16.59						
		0.03	刈豆	1158	荷	38.25						
			葉エンドウ		荷		1314.144	6.16%				
	果実	0.15	梯子	170	荷	25.5						
			栗子		石							
		0.30	梅子	3	荷	0.9						
			柚子		荷		26.4	0.12%				
	桑	0.11	桑葉	23863	束	2625						
	其他	0.05	葉煙草	1650	斤	75						
		0.15	乾草	3500	駄	525						
		0.00	小麦藁	90000	束	125						
		0.03	麦稈薦	1600	枚	40	3390	15.90%	4730.544	22.18%		
畜産・	家禽畜類	2.50	猪	2	頭	5						
		0.10	鶏	405	羽	40.5						
		0.01	鶏卵	12120	顆	65.1						
		2.00	豚	5	頭	10	120.6	0.57%				

漁業	魚類		香魚		尾						
			鰻		貫匁						
			泥鰌		貫匁		0	0.00%	120.6	0.57%	9480.632 44.46%
林業	木材	0.05	貫材	200	挺	10					
		0.03	松板	3000	枚	100					
		0.04	杉板	200	枚	8					
		0.03	屋根板	5000	束	150					
			椹板		枚						
		0.04	杉皮	2000	束	80	348	1.63%			
	竹類	0.05	大竹	350	本	16.66					
		0.08	小竹	26	束	2.166					
		0.10	タケノカワ	10	束	1	19.826	0.09%			
繊維	薪炭	0.02	ソダ	12048	束	240.96					
		0.00	薪	90000	貫匁	300					
		0.09	炭	2500		237.273	778.233	3.65%	1146.059	5.37%	
	糸	28.58	生糸上等	88.695	貫匁	2534.705					
		27.03	生糸中等	23.568	貫匁	636.964					
		8.33	ノシ糸	32.493	貫匁	270.767					
		12.50	玉糸上等	12.318	貫匁	153.953					
		12.50	玉糸中等	8.642	貫匁	108.025					
		2.50	皮剝糸	5.613	貫匁	14.035					
			口糸		貫匁		3718.449	17.44%			
	繭	3.00	繭中等	492.75	貫匁	1478.25					
		2.50	繭下等	196.4	貫匁	491					
		3.33	大繭中等	49.275	貫匁	164.25					
		2.50	大繭下等	39.28	貫匁	98.2	2231.7	10.47%			
	木綿糸繊維		木綿縫糸		貫匁						
			木綿織糸		貫匁						
			博多帯地		筋						
		0.75	木綿織物	350	反	262.5					
		1.50	ノシ糸織物	50	反	75	337.5	1.58%	6287.649	29.49%	
食品	醸造	4.30	清酒	120	石	516					
		6.00	焼酎	3.6	石	21.6					
		3.90	濁酒	5.28	石	20.6					
		1.03	味噌	310	貫匁	318.75					
		5.50	醤油	30	石	165	1041.95	4.89%			
	油	23.68	荏油	1.14	石	27					
		22.37	菜子油	9.5	石	212.5	239.5	1.12%			
	加工食品	1.11	小麦粉	1800	貫匁	2000					
			麺粉		貫匁						
		0.22	蕎麦粉	164.16	貫匁	36.8					
		0.30	製茶	510	斤	153					
		0.40	漬梅	45	樽	18					

		0.02	豆腐	5760	挺	92.16						
			雑菓子		箱							
			煙草		斤		2299.96	10.79%				
	その他	0.50	酒糟	65	ツト	32.5						
		0.71	糠	5		3.571						
		0.50	麺	360		180						
		1.00	豆腐滓	9.3	石	9.3	225.371	1.06%	3806.781	17.85%		
生産手段	藁製品	0.05	藁ムシロ	100	枚	5						
			藁菰		枚							
			藁縄		房							
			草鞋		足							
			馬沓		足							
			藁		束		5	0.02%				
	鉄製品	0.14	鎌	40	枚	5.6						
		1.00	鍬	50	枚	50						
		0.30	釘	100	本	30	85.6	0.40%				
	木材製品	0.10	手桶	200	個	20						
		0.25	タライ	60	個	15						
		0.08	樽	1000	個	78.33						
		0.38	戸	150	枚	56.25						
		0.31	障子	210	枚	65.625						
		0.01	真菅	9000	束	50	285.205	1.34%				
	肥料	0.50	油滓	224	枚	112						
		0.25	醤油滓	16	包	4						
		0.25	鶏尿	50		12.5						
		0.26	蚕屎	384		98.5	227	1.06%	602.805	2.83%	11843.29	55.54%
総計						21323.93	21323.93	100%	21323.93	100%	21323.93	100%

醸造物にしても、清酒、醤油はともかく、焼酎は一二石、一二〇円、味噌は一四二円である。三増村の焼酎はわずか三石六斗、二一円六〇銭、濁酒は五石二斗八升、二〇円六〇銭であった。荏油の場合も、田代村ではわずか三斗八升、一一円、三増村の場合も一石一斗四升、二七円であった。こうした点は他の加工食品についても指摘し得るし、なによりも、本表において一応生産手段としてまとめておいた、藁製品、鉄製品、木製品、肥料に顕著に現われている。これらの産物は表6、表7の農産物の桑その他にあげておいた小麦ワラ、乾草とともに農業をいとなみ、生活するために必要な生活・生産用具である。これらの自給的生活・生産用具＝自給民具については少なくとも明治六年の物産調査では調査対象にはなっていない。これらの生活・生産用具＝自給民具を含めて、全ての産物の生産高と生産額を調査したところに皇国地誌における物産調査の特徴があると言えよう。

田代村、三増村に見られる詳細な物産調査が、如何なる意図によって行なわれたのか、自給民具にいたるまで産額で示した事実の意味をどう考えれば良いのか。およそ一般的に流通しているとは思えないものの価格はどの様な性格のものとして考えるべきか。この史料を史料として批判すべき多くの問題が残されている。ここでは、右の点を指摘し、こうした限定があることを認識しながら、ここからどの様な農村経済の姿が浮かびあがってくるのかを史料に即して明らかにすることにしよう。とは言うもののさし当って、右の諸点については次のように考えておきたい。

皇国地誌は明治八年六月五日付第九十七号ならびに同年一一月一二日付第百九拾六号の公達に基き府県単位で調査がおこなわれたものである。両布達、特に第九拾七号の布達にそえられた「皇国地誌編輯例則」の第一号に村誌について「本誌、全村ノ景状ヲ知ランヲ欲ス、故ニ本例ニ照準シ、細密ニ之ヲ記シ、遺漏ナカランヲ要ス」として「某国某郡某村、技村、新田」、「疆域」、「幅員」、「管轄沿革」、「里程」、「地勢」、「地味」「税地」、「飛地」、「字地」、「貢租」、「戸数」、「人数」、「牛馬」、「舟車」等々四七項目についての記載例をあげている。

本節にかかわる物産については、

「物産　動物、（質ノ美悪如何、出来高ノ多少幾何、某地ニ輸送ス等ノ類）、植物、（上ニ倣ヘ）、器用（上ニ倣ヘ）、飲食（上ニ倣ヘ）其他製造物（上ニ倣ヘ）

民業　男　農桑ヲ業トスル者幾戸、或ハ薪炭ヲ業トスル者幾戸、或ハ漁猟ヲ業トスル者幾戸ノ類

女　縫織ヲ業トスル者幾人、或ハ養蚕ヲ業トシ或ハ製茶ヲ業トスル幾人ノ類」(8)

と記されている。

物産については「出来高の多少幾何」が調査対象になっているが、生産高、単価、生産額で示すようになっていない。事実、神奈川県下に残存する皇国地誌の大多数は物産の数量記載はなく、例えば三浦郡の長浦村の場合、

「物産　東京及横浜へ輸送ス。

民業　男　農業スル者四拾弐戸、漁業スル者六拾三戸、雑業スル者五拾六戸

女　農業スル者四拾五人、農間麻紡績スル者及採薪スル者弐百弐拾七人」(9)

と物産は「東京及横浜へ輸送ス」と記され、産物の多少については全く記載がない。ほとんどの村の「物産」は例則にある「某地ニ輸送ス」という点のみを記載しているのである。田代村、三増村の様な物産記載のあるのは例外であったと言える。『神奈川県皇国地誌残稿』（上・下）には三浦郡三六、鎌倉郡一二、大住郡一七、濁綾郡八、足柄下郡二六、足柄上郡五、愛甲郡二七、津久井郡一、高座郡一四、橘樹郡一、合計一〇郡一四七ヶ村の皇国地誌（村誌）が収録されている。このうち、田代村、三増村と同じ形式の物産書上があるのは愛甲郡愛甲村（現厚木市）、同郡船子村（現厚木市）同郡戸室村（現厚木市）、同郡恩名村（現厚木市）、同郡厚木町（現厚木市）同郡林村（現厚木市）、同郡田代村（現愛川町）、同郡三増村（現愛川町）の七ヶ村のみである。この七ヶ村はいずれも愛甲郡に属し、うち五ヶ村は現厚木市、二ヶ村は

現愛川町の村であった。

愛甲郡を除く他の九郡の一二〇ヶ村の皇国地誌（村誌）は草稿であれ、浄書本、写本であれ、ほぼ完全な形で残されている。しかし愛甲郡の皇国地誌（村誌）は七ヶ村を除き、全てが後欠となっている。その理由は検討する必要があるが、愛甲郡の村誌の物産調査が田代村、三増村と同じであったことを予想させる。

ところで皇国地誌（村誌）は明治八年の布達にもとずき、各府県単位でおこなわれ、県令の指示にしたがい作成した各町村の村用掛、副戸長、戸長が県の地誌編輯掛に提出し、提出された地誌も、県の地誌編輯掛りで編纂・浄書し、一組を原本として政府に提出し、一組を県庁に、一組を郡別に分けて各郡役所に保存したと言われている。(10)

地誌編纂は国→県→郡→大区→小区→町村に伝達され、県の地誌編纂掛り、郡役所の担当官によって具体的な指示がなされ、各町村で草稿、地誌の原本が作成され、県の地誌編纂掛りのもとに集められ、編纂されたと思われる。したがって、地誌編纂には、それぞれの段階において多くの人がかかわったと思われる。当然、具体的指示は担当官の地誌編纂についての認識のあり様によって異なることが予想される。田代村、三増村にみられる物産調査が愛甲郡にのみ認められ、しかも、愛甲郡の他の二〇点は全てが後欠になっていることを思うと、愛甲郡の場合は物産調査に力点を置いた調査が他の九郡とは違っておこなわれたと考え得るであろう。

このように見てくると田代村と三増村の表6、表7に示された、物産の品種、各物産の生産高、生産額は村における調査をふまえて推計された。その意味では、調査時点での実態をかなり正確に示しているものと思われる。例えば物産の価格について見ると、その中には藁や藁製品のように、自給民具と呼ばれる物も含まれているが、水田のほとんどない村では、これらの藁や藁製品を貨幣もしくは他の商品と交換して手に入れていたと考えられる。したがって、きわめて個別的ではあるが、これら自給産物にも価格が存在し、それらの材を価格換算する基準価格が推定されてい

てもおかしくはない。以上を前提に、表6、表7を検討することにしよう。

明治一五年の田代村の総生産額に占める第一次産品、非加工の農産物の割合は三三、七二％である。総生産額の三分二が第一次産品＝加工品であった。農産品のうち最も産額の多いのは穀類で農産額全体の七二％であった。穀類の中でも米の産額が最も多く、三五六一円余の穀類産額のほぼ六〇％に当る二一三三円余を生産している。田代村の農業は水田稲作の比重の高い穀類生産を中心としたものであったことを示している。

田代村の農産額を明治六年の戸数で割り、一戸当りの農産額を出して見ると、一戸当り三五円となる。この数値は皆畑の三増村の一戸当りの農産額三四円とほとんど変りはない。そのことは、少なくともこの地域の様に全耕地に占める水田の比率が一割から三割程度の村では稲作の農業生産に占める比重はそれ程大きくはないことを物語っている。

次に林産物（山稼）、養蚕、製糸、織物等の繊維製品、清酒等の醸造、絞油、加工食品などの第二次産品＝加工品について見てみよう。これらの農業外の産額が田代村では六六％、三増村で五五％と第一次産品＝農産額よりも多い。田代村では清酒、醤油を中心とした醸造物、絞油、加工食品等の産額は五五一二円と全農産額四九三四円余よりも多く、総生産額の三七、六七％を占めている。そのうち、清酒、醤油等の醸造物は食品加工のほぼ八一％、四四六二円に達していた。次いで多いのは総生産額の二〇、一五％、第二次産品のほぼ三〇％に当る二九四九円の生産額のある繊維関係製品である。両者で第二次産品のほぼ八七％を占めている。田代村の商品生産は醸造業と養蚕、製糸業によって支えられていたと言えよう。

これに対し、三増村の清酒、醤油等の醸造は総産額の四、八九％、第二次産品の八、七九％に過ぎない。第二次産品のうち最も多いのは繊維製品であり、総生産の二九、四九％、第二次産品の五三％を占めていた。三増村の場合は

醸造品より小麦粉、茶、麹、豆腐といった加工食品の生産額が多いことが注目される。その産額は醸造品のほぼ二倍であった。三増村は田代村より養蚕・製糸業の比重の高い、また田代村のように資金力のある醸造家が居ない村であったと思われる。田代村と三増村はかなり異った構造を持つ村であったと見ることが出来よう。

ところで両村の林産物について見ると、産額は一一四六円と三増村の方が八七一円の田代村よりやや多い、しかし、その生産額が両村の総生産額に占める割合は三増村は五、三七％田代村は五、九六％と田代村の方が高い。しかし、両村の間にはそれ程の差はない。薪炭生産額に見られるように両村とも山稼の中心は薪炭生産にあったことが注目される。しかし、それも商品生産の域には達していないと判断される。

以上、表6、表7から田代村、三増村の明治一五年における生産概況を検討してきた。次に明治六年の生産概況と比較してみることにしたい。

五　明治六年から明治一五年にかけての生産構造の変化

本節は明治六年と明治一五年の田代村、三増村両村の産物構成を比較検討することによって、この地域における明治前半期の生産構造の変化を明らかにせんとするものである。そのために田代村、三増村両村の明治六年、明治一五年の産額を比較したのが表8である。明治六年の生産額は、すでに指摘したように明治一五年の価格によって換算した数値であり、実際の数値ではない。この点を認識したうえで、表8を検討することにしよう。

表8にある「伸率」は明治六年の産額を基準とした倍率であり、一以下は減少を、△は明治一五年に新たに産物として調査対象になったものであることを示している。

明治十五年に新たに調査対象になった産物は、田代村の場合は家禽類、魚類、織物、油、それに藁製品、鉄製品等

表8　明治6年・明治15年　田代村・三増村生産額比較表

			田代村					三増村				
			明治6年		明治15年		伸率	明治6年		明治15年		伸率
第一次産品 非加工品	穀類	主穀	1167.6	18.24%	2133.75	14.65%	1.83	0	0.00%	0	0.00%	
		雑穀	1121.766	17.52%	1427.566	9.80%	1.27	3561.8	61.40%	4629.488	21.71%	1.30
	小計		2289.366	35.76%	3561.316	24.45%	1.56	3561.8	61.40%	4629.488	21.71%	1.30
	農産物	園芸類	1037.324	16.20%	762.706	5.24%	0.74	122.03	2.10%	1314.144	6.16%	10.77
		桑	60	0.94%	542.97	3.73%	9.05	180	3.10%	3416.4	16.02%	18.98
	小計		1097.324	17.14%	1305.676	8.96%	1.19	302.03	5.21%	4730.544	22.18%	15.66
	畜産漁業	家禽畜類	0	0.00%	23.3	0.16%	△	63.5	1.09%	120.6	0.57%	1.90
		魚類	0	0.00%	43.9	0.30%	△	0	0.00%	0	0.00%	
	小計		0	0.00%	67.2	0.46%	△	63.5	1.09%	120.6	0.57%	1.90
合計			3386.69	52.91%	4934.192	33.88%	1.46	3927.33	67.70%	9480.632	44.46%	2.41
第二次産品 加工品	繊維	糸	578.763	9.04%	1830	12.56%	3.16	939.7	16.20%	3718.449	17.44%	3.96
		繭その他	151.69	2.37%	675	4.63%	4.45	0	0.00%	2231.7	10.47%	△
		繊維	0	0.00%	444	3.05%	△	0	0.00%	337.5	1.58%	△
	小計		730.453	11.41%	2949	20.25%	4.04	939.7	16.20%	6287.649	29.49%	6.69
	食品	醸造	2117.3	33.08%	4462.4	30.64%	2.11	763.9	13.17%	1041.95	4.89%	1.36
		油	0	0.00%	65	0.45%	△	0	0.00%	239.5	1.12%	△
		加工食品	1.4	0.02%	985.452	6.77%	703.89	70	1.21%	2525.331	11.84%	36.08
	小計		2118.7	33.10%	5512.852	37.85%	2.60	833.9	14.38%	3806.781	17.85%	4.57
	林業等	木材	15.6	0.24%	389.093	2.67%	24.94	0	0.00%	367.826	1.72%	△
		薪炭	150	2.34%	482.5	3.31%	3.22	100	1.72%	778.233	3.65%	7.78
	小計		165.6	2.59%	871.593	5.98%	5.26	100	1.72%	1146.059	5.37%	11.46
	自村内生産手段	藁製品			125.1	0.86%	△			5	0.02%	△
		鉄製品			163.75	1.12%	△			85.6	0.40%	△
		木製品								285.205	1.34%	△
		肥料			76.46	0.52%	△			227	1.06%	△
	小計		0	0.00%	365.31	2.51%	△	0	0.00%	602.805	2.83%	△
合計			3014.753	47.09%	9698.755	66.59%	3.22	1873.6	32.30%	11843.294	55.54%	6.32
総計			6401.443	100.00%	14632.947	100.00%	2.29	5800.93	100.00%	21323.926	100.00%	3.68

（△は明治15年に現われた品目）

の自給民具と自給肥料である。三増村の場合は繭、織物、油、木材および藁製品、鉄製品、木製品等の生活・生産用具＝民具であり肥料である。

このうち、織物および木材は、量的に見てもこの時期の商品生産の発展の結果を示すものと思われるが、油の場合は量が少なく商品生産の発展を示すものとは言えない。藁製品等の生活、生産用具＝民具、肥料とともに自給的消費材、生産手段とともに、明治六年には存在していても物産調査の対象とされなかったものが、明治一五年の調査では調査対象とされたと考えるべきであろう。

しかし、この事実は明治六年の物産調査と明治一五年の物産調査の間に調査目的に違いがあること、なによりも村の経済、富を貨幣量で把握し、表現する認識が滲透してきたことを意味している。この地域の村では明治六年から一五年に至る、一〇年間に貨幣経済、商品経済が急速に滲透してきたと言えよう。

さて表8を見ると、明治六年と明治一五年の総生産額は田代村では六四〇一円から一四六三二円と二、二九倍、三増村では五八〇〇円から二一三三円と三、六八倍に増加している。三増村の方が田代村より増加率が高い。両村の中で、生産額が減少しているのは田代村の園疏類のみである。

次に第一次産品（農産物）と第二次産品（加工品）の伸率を比較して見ると、第一次産品は田代村、三増村ともに総生産額の伸率より低く、田代村は一、四六倍、三増村も二、四一倍であった。これに対し、第二次産品は田代村では三、二二倍、三増村では六、三二倍と総生産額の伸率よりかなり高くなっている。

ところで、両年の総生産額に占める比率を見ると、田代村の場合は米を含めた穀類は三五、七六％から二四、四五％、園疏類等の農産物は一七、一四％から八、九六％へ、合計では五二、九一％から三三、八八％と大幅に減少している。三増村でも穀類は六一、四〇％から二一、七一％、ほぼ三分一に比率を下げているが、園疏類等の農産物は逆

に五、二一％から二二、一八％と総生産額に対する比率を伸ばしている。しかし、三増村でも合計では六七、七〇％から四四、四六％に総生産額に対する比率を下げている。両村とも総生産額に占める農産物を中心とした第一次産品の比率は五〇％を下まわっていた。

これに対し第二次産品＝加工品の総産額に占める比率は田代村の場合は四七、〇九％から六六、五九％、三増村の場合も三二、三〇％から五五、五四％と比率を伸ばしている。

すでに指摘したように第二次産品の伸率は両村とも第一次産品の伸び率よりかなり高い。しかも第一次産品はその伸率から考えると、すでに三節で検討したように村内で消費される自給産物であると考えられる。この二点を合せ考えると、この地域の村における農業生産力の発展は微々たるものであり、商業的農業の発展は認められないと言えよう。

これに対し、すでに明らかなように、明治一五年には、明治六年の田代村では約三倍、三増村の場合はほぼ六倍強の第二次産品＝加工品の生産額が認められる。しかも、第二次産品の生産額が総生産額の過半を占めることになったのである。明らかに、明治六年から一五年の間に第二次産品を主軸にした商品生産の発展が認められる。しかし、その発展は農業生産力の発展によってもたらされたものとは必ずしも言えない。それは、農村における商品生産の展開を田方あるいは畑方農業の発展の所産として捉える考え方を吟味しなおす必要があることを物語っている。

ところで、田代村、三増村の商品生産の発展を示す第二次産品について見ると、田代村の場合は木材生産を中心とした林業＝山稼の伸率が最も高いが、量的にも、総生産額に占める比率から考えても基軸的存在ではない。伸率を見ても、全生産額に占める比率を見ても、繊維生産、特に糸・繭生産の発展が基軸になっていたと言えよう。三増村の場合は田代村以上に糸・繭生産の発展が村の経済発展の基軸になっていた。この時期に養蚕・製糸生産を中心に発展

してきた商品生産を基礎に織物業が展開してきたことも注目しておきたい。

以上のように明治六年から明治一五年に至る一〇年間は村の立地条件も、田畑耕地のあり様も異なる愛川町域農村において、第二次産品、特に養蚕・製糸業の発展を基軸にした商品生産の発展が顕著に現れ、村の経済規模を二倍から四倍に拡大したと言える。こうした生産力の発展に規定され、村をとりまく山を利用した木材や薪炭業の発展が見られるのも、この地域の特徴であろう。山稼は商品生産としての性格をもつに至った。また、食品加工業も、この間にいちじるしい発展を示しているが、おそらく近世から発展していたと思われる醸造業は量的には増加しているが、村経済に占める割合は減少している。この点から見ても、この間の商品生産の発展は養蚕・製糸業を基軸に発展したものであることを確認し得るであろう。

あとがき

以上、愛川町域農村の明治前期における生産構造とその変化を明治六年の「産物書上」と明治一五年に編成された「皇国地誌」の物産調査を中心に検討してきた。その結果、調査の実態が不確であるとの理由で必ずしも十分利用してこなかった「産物書上」等この種の調査も、ぎりぎりの所まで分析をつめると様々な村の姿を語ることを知り得た。

今は亡き良き友であり、良き師でもあった丹羽邦男さんと共通の恩師でもあった古島敏雄先生が「学問は、理論が一番大事だし、おもしろいのだというわけです。まあ、それはその通りなんですが、しかし手をつける糸口ってものは、はじめから経済原論という大きな現象を全体として目にすることはできないし、分析する手がかりもないんですね。経済現象の一部分にも全体を流れるロジックは通じている。熟知している側面で、その場を動かす条件を正確に捉える努力をすれば、やがて全体像に迫る糸口が見えてくる。」[11]と話しておられた言葉の意味を思いながら、むすびと

したい。亡き友丹羽邦男、亡き師古島敏雄先生の安らかなことを願って。

注

(1)『かながわ論叢10』(神奈川大学経済学会一九七六年)

(2)例えば小風秀雅「茅ケ崎市域の皇国地誌」(『茅ケ崎市史研究』第三号)・田島悟「伊勢原市域の皇国地誌」(『伊勢原市史研究』

(3)『神奈川県皇国地誌残稿(上・下)』神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会編。昭和三八年三月二〇日刊行。

(4)「明治七年甲戌十一月改大小区別戸数人口調」(『愛甲郡制誌』愛甲郡役所、大正一四年刊)

(5)愛川町田代大矢家文書。(以下大矢家文書と記す)

(6)大矢家文書には愛川村田代人民大矢武平以下一二七人の連名による「不肖武平等ガ本願ヲ成スノ要旨ハ愛川村ノ内田代ヲ分割シテ隣村高峰村ニ併合ノ許可ヲ得ントスルニアリ」との「請願の趣旨」を持って神奈川県知事内海忠勝に提出した「請願書」が残されている。この「請願書」の綴りは割印、連名者の記名押印があり、写しではない。それ故実際に提出されたのか、提出した後で受理されず返されたものなのかははっきりしない。結果としては両村の分合は行なわれなかった。

(7)(8)(9)注(3)に同じ。

(10)『神奈川県皇国地誌残稿』の上巻の「序」を参照。

(11)一九八八年度の「民具研究講座」の特別講演「経済史家は道具をどう見るか」の講演の一節。『歴史と民俗』4(神奈川大学日本常民文化研究所・一九八九年)にその要旨が収録されている。